

# 臓器移植普及啓発活動

—北里大学病院での腎不全患者、家族、一般市民への移植普及の取り組み—

池田 成江\*

## 1. はじめに

2009年7月臓器移植法案が改正され、2010年の1月には、「親族への優先提供」が施行される。この施行の規定については、厚労省の作業班によって議論がなされており、10月の1回目の班会議においては、インターネットなど既存のものを活用した広報活動案や現場医師に対する認知の重要性、紙媒体の配布についての検討、その難しさといった具体的な意見が挙げられており、国民に対する普及啓発の方法論についての検討もなされている。移植医療社会での臓器移植普及啓発は、医療従事者向けに、ドナーの掘り起こしなど「ドナーをどのように増やすのか」についてが主であり、患者とその家族、さらに一般市民への普及啓発について述べられているものは少ない。

日本における献腎移植の登録待機患者は、毎年平均12,000人ほどであり、平均待機年数は15年以上を越している。北里大学病院泌尿器科においても毎年平均240名ほどの登録待機患者が一日千秋の思いで待っている。献腎移植希望者の長期待機患者のなかには、絶望感、精神的不安や苦悩を訴えた登録取り消しの手紙もよせられる。また、腎移植の連絡は突然来るので登録患者自身のみならず、家族の不安や動揺も計り知れない。これらの不安を少しでも和らげるために当院で継続して行なっている臓器移植普及啓発活動を記述する。

## 2. 「腎移植懇談会」

精神的不安を少しでも回避できるよう、腎移植に関わる医療情報の提供の場として、1999年に第1回の「腎移植懇談会」を当院の腎移植希望登録患者およびその家族を対象として始めた。翌々年には、登録患者とその家族に限らず、腎臓移植医療の啓発のため、地域の透析施設へも参加を呼びかけ、そして2003年からは一般市民、神奈川県全域の透析施設と東京都の隣接する医療施設へと参加の門扉を広げて開催してきた。この会には毎年150名を超える参加者があり、第10回の記念大会では200名の参加者があった。第1回から第11回までの概要を掲げる(表)

\*北里大学病院 泌尿器科 レシピエント移植コーディネーター

回	開催日	開催場所	内容	人数
1	1999年 9月12日(日)	学内	1.2. 献腎移植経験者のお話し 2名 1988年(昭和63年)4月3日 献腎移植手術者 1991年(平成3年)10月9日 献腎移植手術者 3. 臓器移植の現状・コーディネーターの役割について (社)日本臓器移植ネットワーク関東甲信越ブロックセンター コーディネーター 芦刈淳太郎先生	134名
2	2000年 10月22日(日)	学内	1. 献腎移植経験後、再透析に入り再び献腎移植登録までの道 宇田川秀夫様 平成7(1995)年4月17日 献腎移植手術 平成12(2000)年3月2日 再登録 2. 献腎移植の現状について (社)日本臓器移植ネットワーク関東甲信越ブロックセンター コーディネーター 芦刈淳太郎先生 3. アンケート回収結果報告	142名
3	2001年 10月13日(日)	学内	1. 移植後の生活と社会保障 北里大学病院ソーシャルワーカー 堀越由紀子先生 2. 献腎移植登録の現況について (社)日本臓器移植ネットワーク関東甲信越ブロックセンター コーディネーター 芦刈淳太郎先生 3. 北里大学病院の献腎移植登録システム 泌尿器科コーディネーター 池田成江	138名
4	2002年 10月6日(日)	学内	1. 腎臓病の食事療法 北里大学病院栄養部 佐藤照子先生 2. 日本臓器移植ネットワークの役割 (社)日本臓器移植ネットワーク支部 主席コーディネーター 芦刈淳太郎先生 3. 臓器提供の現状と問題点 ー救命救急センターの立場からー 北里大学医学部救命救急医学 北原孝雄先生	122名
5	2003年 10月5日(日)	学内	1. 移植腎と上手に付き合っていくために 北里大学病院看護師 田中美千代先生 2. 献腎移植の登録と提供の現状 (社)日本臓器移植ネットワーク東日本支部 主席コーディネーター 芦刈淳太郎先生 3. 精神科からみた腎移植 北里大学医学部精神神経科学 佐藤喜一郎先生	109名
6	2004年 10月17日(日)	学内	1. 献腎移植登録から生体腎移植へ 1994.10.20 献腎移植登録 1995.3.5 生体腎移植者 野口寿一様 2. レシピエントの選択基準ならびに臓器提供の増加に向けた取り組み (社)日本臓器移植ネットワーク東日本支部 主席コーディネーター 芦刈淳太郎先生 3. 腎移植後の内科的合併症 北里大学医学部腎臓内科 竹内康雄先生 4. 精神科からみた腎移植 精神神経科学 佐藤喜一郎先生	133名

7	2005年 11月6日(日)	学内	<p>1.臓器提供の増加に向けての取り組み (社)日本臓器移植ネットワーク東日本支部       主席コーディネーター 芦刈淳太郎先生</p> <p>2.「なごみの会」について -北里移植者の会のご紹介-</p> <p>3.北里大学病院への移植受診について       腎移植コーディネーター 池田成江</p> <p>特別講演 「これでいいのか日本の医療」 済生会栗橋病院 副院長 医療制度研究会 幹事 本田宏先生</p>	142名
8	2006年 10月1日(日)	学内	<p>1.脳死下臓器提供の流れ    ~移植を受けるまで多くの方が関わっています~ (社)日本臓器移植ネットワーク 東日本支部       主席・チーフコーディネーター 芦刈淳太郎先生</p> <p>2.慢性腎不全となって今思うこと 1986.2.5生体腎移植者 荒木和馬様</p> <p>3.腎移植にまつわる社会保障制度について       患者支援センター ソーシャルワーカー 左右田哲先生</p>	134名
9	2007年 10月14日(日)	学内	<p>1.献腎移植 ~神奈川県における協力体制について~       北里大学医学部泌尿器科学 吉田一成先生</p> <p>2.「伝わるころろ つながる命」~臓器提供の現場から~ (社)日本臓器移植ネットワーク東日本支部       移植コーディネーター 大宮かおり先生</p>	148名
10	2008年 10月5日(日)	学外	<p>(午前の部)パネルディスカッション 「北里大学病院と腎移植」 ~腎移植を振り返って~ 1975年TV放映収録 約15分「生きている人間旅行」 日米腎臓移植の記録 ~じん臓をください~ (編集:2007年10月30日 真下節夫) (パネラー)北里大学名誉教授 酒井 糾先生           北里大学客員教授 遠藤忠雄先生           ましも腎・泌尿器クリニック 真下節夫先生</p> <p>「移植を受けた気持ち・待つ気持ち」 北里大学病院泌尿器科 献腎移植登録患者代表 3名 北里大学病院腎移植患者会 なごみの会会員 3名</p> <p>(午後の部)-特別企画- 特別講演「臓器移植法10年を超えて~脳死・献腎移植の現状と未来」 (社)日本臓器移植ネットワーク医療本部 副部長 芦刈淳太郎先生 10回記念講演 「どうなる、どうする年金と医療」 横浜国立大学名誉教授 神代和欣先生</p>	198名
11	2009年 10月11日(日)	学内	<p>1.脳死と臓器提供について 救命救急医学 北原孝雄先生</p> <p>2.改正臓器移植法で何が変わるのか?    社団法人 日本臓器移植ネットワーク医療本部副部長       チーフ移植コーディネーター 芦刈淳太郎先生</p> <p>3.再生医療本格化のため細胞シート工学    東京女子医科大学先端生命医科学研究所教授 大和雅之先生</p>	150名

当初の精神的不安の緩和という観点から、移植患者からの体験談などの発言や腎移植後の自己管理の重要性について講演、また医療経済や最先端医療といった話も行ない、会を重ねるごとに広範囲なカテゴリーで行なっている。開催には①「いま、何を、どんな情報」が必要か②「患者の目」で見ることができる視点であること、そして③「社会情勢を鑑みた内容」であること④「企画者は企画のアンテナ」を常に張ることが重要であると考えている。

### 3. 「相模原市民桜まつり」出展

一般市民を対象として移植医療の啓発のため2004年より相模原市民まつりへの出展をしている。対象が一般市民ということで、腎代替治療のパネルや腎移植者からのメッセージの展示、DVD上映、ポケットティッシュの配布、アンケート実施など、市民への移植医療に関心を持ってもらい、これを正しく理解してもらえるように啓発活動を行っている。特にパネル展示には市民が足を止めて見てもらえるよう、簡単明瞭に、大きくイラストを入れるなどの工夫をしている。また、この啓発活動について、毎年メディアに取り上げられている。これには、泌尿器科の職員のほか、日本臓器移植ネットワークのCoや院内Co、移植支援室のメンバーや移植医療に関連する企業からのボランティア、医学生の協力的な参加がある。

### 4. 今後の展望

今後もこれらの活動によって、移植医療の認識や理解を促し、腎不全に苦しむ患者の社会的地位の変動やQOLの低下、生活のリズムの変化などの一助となる啓発活動を目指していくには、患者会などの協力体制、医療従事者との連携をはかり、まずは、移植医療に対して少しでも多くの人々に関心を持ってもらうことが重要だと考える。